

# 補聴器の 正しい選び方・使い方



亀井昌代 (岩手医科大学耳鼻咽喉科頭頸部外科講師)

本コンテンツはハイブリッド版です。PDFだけでなくスマホ等でも読みやすいHTML版も併せてご利用いただけます。

▶ HTML版のご利用に当たっては、PDFデータダウンロード後に弊社よりメールにてお知らせするシリアルナンバーが必要です。

▶ シリアルナンバー付きのメールはご購入から3営業日以内にお送り致します。

▶ 弊社サイトでの無料会員登録後、シリアルナンバーを入力することでHTML版をご利用いただけます。登録手続きの詳細は<https://www.jmedj.co.jp/page/resistration01/>をご参照ください。

▶ 登録手続

1. 補聴器とは ..... p2
2. 補聴器の種類 ..... p3
3. 補聴器の機能 ..... p7
4. 補聴器の選び方 ..... p14
5. 補聴器装用指導 ..... p17
6. 補聴器装用後のカウンセリング ..... p18
7. 集音器と補聴器の違い ..... p18
8. 補聴器の効果を高めるために難聴者以外ができること ..... p19

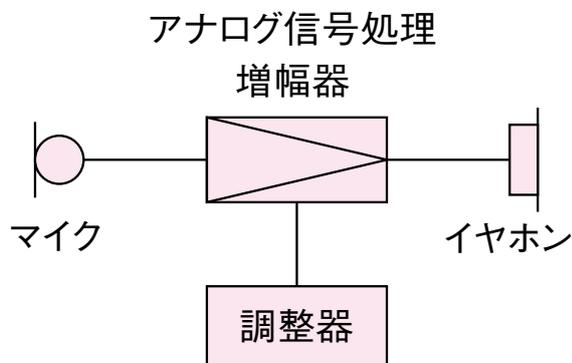
▶ HTML版を読む

日本医事新報社では、Webオリジナルコンテンツを制作・販売しています。

▶ Webコンテンツ一覧

# 1 補聴器とは

補聴器は音を増幅することで低下した聴力を補う機器であり、薬事法に定められた管理医療機器（クラスII）である。補聴器の目的は、難聴者の聴力に合わせて音を大きくし、会話を最もよく理解できる大きさに聞かせることである。マイクロホン（マイク）から入力された音（アナログ信号）をデジタル信号に変換（数値化）し、その信号に対して様々な処理を行い、音（アナログ信号）に戻してイヤホンから出力するというのが基本構造である（[図1](#)）。



**図1** 補聴器の基本構成

（文献1より引用）

一般広告の影響もあり、難聴者や家族は補聴器を装用した瞬間から以前の聞こえに戻ると思い込んでいることが多い。しかし、補聴器の目標は難聴者に残存する聞こえの力を最大限に引き出すことであり、若いときの聞こえに戻すことではない。「補聴器を装用していくということは、新しい音環境に合わせて脳を訓練していくことであること」や「補聴効果が上がるまでには時間がかかること」など、難聴者が自身の難聴や補聴器に関する正しい知識を持ち、補聴について理解しなければ装用を継続していくことは難しい。

さらに、難聴者に補聴器を正しく選択・適合し使用させるためには、耳鼻咽喉科補聴器相談医・言語聴覚士といった医療従事者だけでなく、認定補聴器技能者・認定補聴器専門店との連携も非常に重要である。

## 2 補聴器の種類

現在は大部分がデジタル補聴器で、アナログ補聴器はごくわずかである。

### (1) 音の伝導方式による分類

#### 1) 気導補聴器

音が外耳道・中耳経由の通常の経路で伝わる補聴器である。

#### 2) 骨導補聴器

音が中耳経由の通常の経路を通らずに、蝸牛を含む骨構造を振動させて伝わる補聴器である。出力変換器（トランスデューサ）は骨導振動子で、骨導振動子以外の補聴器部品は気導出力の補聴器と同じである（[図2](#)）。振動による補聴であるため、高度以上の難聴者に対しては音が不足する。



**図2** 骨導補聴器

カチューシャ（ヘアバンド）型骨導補聴器

#### 3) 軟骨伝導補聴器<sup>1) 2)</sup>

近年開発された補聴器である。音が中耳経由の通常の経路を通らずに、軟骨構造も振動させて伝わる補聴器である。出力変換器（トランスデューサ）は振動子で、振動子以外の補聴器部品は気導出力の補聴器と同じである（[図3](#)）。



図3 軟骨伝導補聴器

## (2) 補聴器の外観による分類

### 1) ポケット型補聴器 (図4)

操作が簡単で価格が安価であるが、生活活動の邪魔になりやすい。



図4 ポケット型補聴器(気導補聴器)  
(リオネット補聴器カタログより転載)

### 2) 耳かけ型補聴器 (図5)

ハウリングが生じにくく、生活活動への支障が少ない。マスク着脱時には工夫が必要となる。